

# 郷土文化財紹介

## 石造物シリーズ

### <西方寺の阿弥陀様>

乙坂から坂下橋を渡り左折すると高みに中央線の鉄橋が見えます。これを潜り右折すると前方正面に大型の磨崖仏が現れます。西方寺自治会の「阿弥陀様」です。



まず、故原寛の遺稿を紹介します。

「この石仏は、江戸中期享保時代中頃(1725頃)、近くに居住していた庄六良が奥さんの病気を治そうと発願したことに端を発する。彼は集落の安全を含めて祈願し阿弥陀仏を祀るべく、近隣の多くの村々を勧進して歩きながら、当時川上村に招かれ食客していた堺の石工で仏師でもあった三宅六兵衛親子率いる石工連に制作を乞い願った。再三の依頼に六兵衛親子は快諾し、川上川畔に露頭する巨石に彫刻したと記録に見える。」

次のような伝承もあります。

「廃仏毀釈の折りには土砂で埋めて姿を隠し難を逃れた」、「中央線開設にあたり測量を行ったところ測量が上手くいかず阿弥陀様の祟りといわれ、やむなく当初の予定進路を変更せざるを得なかった」など。



「坂下町の石仏」(坂下町文化を守る会)の調査記録には、花崗岩で石の高さ278cm、巾290cm、阿弥陀如来座像の高さ190cmとあります。穏やかな顔で蓮華に座す大きな磨崖仏です。座像の右手に施主庄六良謹造立、左手に仲冬如意良辰日と記され、さらに16ヶ村名と寄進者数などが刻まれているそうです。左前に立つ石仏は鶴亀地藏で「享保十四己酉暮秋如意日願主庄六良謹造」と記され1729年9月吉日に建立されており、庄六良はその50余年後の天明元(1781)年に没しています。阿弥陀様を大切に護られ長生きをして、西方浄土へ旅立たれたのでしょうか。